



TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部
国際センター ニュースレター

Vol. 18 Winter & Spring, 2013



ポーランドからの留学生と一緒に(本人左)

1. Hello from All Corners of the World!

 リネアス大学 水川 絵美 (外国語学部3年次生)

私 は去年の9月からスウェーデンのカルマーという街にあるリネアス大学で勉強しています。スウェーデンの福祉体制に関心があったのと、できるだけ日本人の少ない環境を求めていたので、この国を選びました。もうすでにここに来て6か月が経過したので、これまでの留学生生活を振り返ってみようと思います。

リネアス大学では、最初から現地の学生と同じ正規授業を受けるため、初めの数ヶ月は授業に慣れるだけで大変でした。私ともう一人の日本人学生以外はすべてスウェーデン人で、もちろん授業はすべて英語です。学生たちは、スウェーデン語が母語ですが、ほとんどの学生が英語を流暢に話します。先生が何を説明しているのか、今何をすべきなのか、課題は何なのか、分からないことだらけの毎日でした。また、現地の学生や他の国からの留学生と会話しても、経験でしかつかむことのできない会話のリズムなどが分からなかった私は、楽しい半面、正直苦痛を感じていました。どうにかもっと話せるようになりたい、そして友達をたくさん増やしたいという先走る気持ちと、まだまだ満足した英語が話せない自分とのギャップに葛藤が続きました。それでも、前学期の終わり頃には、ようやく授業や生活環境に慣れてきて、



同じアパートに住んでいる学生たちと(本人左端)

授業の内容や課題の目的も理解して取り組むことが出来るようになりました。

今学期からは、日本人は私一人になりました。語学を学ぶ上ではとてもよい環境だと思っていますが、やはり寂しくて、以前よりも友達と過ごす時間が増えているような気がします。周りの友人たちからフィーカ(スウェーデンのお茶を楽しむ文化)や食事、パーティーに誘われるととても嬉しくて、その一つ一つが私にとっては大切なイベントです。

留学生活では日本では考えられない体験をし、これまで経験したことのない感情が湧きあがってきたりしますが、何より自分と向き合える時間がたくさんあります。しんどくて、辛いことがあると、そのことばかりで頭が一杯になってしまいがちですが、諦めずに前を向いて、必ず今が未来に繋がっていると信じるのが大切なのだと、この留学体験を通して学びました。そして、行動することは自分に何か新しいことを与えてくれます。今、留学に限らず、何か実行しようかしまいか迷っている人がいるかと思います。自分はいまよくやっていたらどうか、成長するだろうか…その答えを見つけ出せるのは自分自身しかいません。やってみないと何も始まらないのです！

 ミシシッピ大学
中野 遼 (国際学部3年次生)

僕 がミシシッピ大学に来てから、あっという間に半年以上が過ぎてしまいました。時間が過ぎるのが本当に早く感じます。

ミシシッピ大学は世界中から多くの留学生が来ているので、留学生をサポートする環境が整っています。その中でも僕が気に入っているのが Global Ambassador というシステムです。Global Ambassador は留学生たちをサポートしてくれるミシシッピ大学の学生たちで、留学生5~6人に1人

の Global Ambassador がついてくれます。簡単に言ってしまうと、遊びに連れだしてくれる人たちです。僕も、Global Ambassador が Thanksgiving Dinner に家に招待してくれたり、クリスマスパーティー、スーパーボウルパーティーなどのイベント

目次:

Hello from All Corners of the World! 1-2

Internship at the International Center 2-3

春期海外研修:
ヨーロッパ3か国・ビジネス研修 3

I-Chat Lounge 4

新規提携大学:
California State University,
Monterey Bay 4

私のおススメ in NZ 4



秋学期のGlobal AmbassadorのReed(右から2人目)と一緒に(本人右端)

に誘ってくれたり、他にも色々な場所に連れて行ってくれました。春学期になって新しいGlobal Ambassadorに変わりましたが、今でも時々秋学期のGlobal Ambassadorに会っ

さ や か

🇦🇺 CQ大学 有馬 冴菜 (外国語学部2年次生)



留学生のチャリティイベント

CQ大学にあるランゲージセンターでの23週間の勉強を終え、2月末から正規科目を受講しています。授業が始まる前は1週間のオリエンテーションがあり、コースや履修登録の説明を受けました。最初は不安でしたが、周りのオーストラリアの新入生たちも同じところからのスタートだったので、頑張ろうという気持ちになれました。オリエンテーション中にはオーストラリアの学生はもちろん、アメリカ、カナダ、スウェーデン、ドイツからの留学生とも仲良くなりました。ランゲージセン

ています。このシステムはアメリカのリアルな生活文化を体験出来るので、留学生にとってはとても良いシステムだと思います。

僕はこのミシシッピ大学に留学して本当に多くのことを学んだので、今学期は何か地域に貢献出来ることはないかと考え、ボランティア行事や学校のイベントには積極的に参加しています。実際に参加したボランティア活動は、貧しい地域に住んでいる小学生たちに自分の国の文化を伝えたり、彼らをミシシッピ大学に招いて野球の試合に引率をしたりするものでした。また、UM Big Eventという1年に1度実施されるミシシッピ大学の大きなボランティア行事があり、それにも参加しました。ボランティアに参加した生徒は1,500人以上、それぞれ20人くらいのチームに分かれて、市内のあちこちに出かけて地

域のために活動をしします。朝早くからだったので辛かったですが、とても良い経験になりました。このように留学生でも色々な活動に参加出来ます。これからも僕はこのような活動に参加していくつもりです。

留学生生活も残り少ないので、最後まで悔いの残らないように頑張っていきたいと思います。



ルームメイトたちとスペイン人留学生 Eleder(左)、ブラジル人留学生 Iwyson(右)、本人(中央)>

ターでの授業もそうですが、こちらでは、すべての授業で「積極性」が求められるので「聞いているだけ」の授業はほとんどありません。授業や課題は大変ですが、いつもクラスメートが助けてくれるので頑張ることが出来ます。

留学をしていて、「時間の使い方、スケジュール管理の大切さ」を本当に実感しました。大学では、エッセイやレポート、プレゼンテーションの日にちが重なることがよくあります。全部同時には取り組めないし、先延ばしにしていると焦って、どれかが疎かになってし



ビーチで友人と

まうこともあります。ランゲージセンターで勉強していた頃に、エッセイに時間がかかりすぎて、1度だけ徹夜でプレゼンの準備をしたことがありますが、かなりハードでした。余裕を持って準備しておけば自信が持てますが、そうでないと自信が持てないので、自ずと良い成果を得ることが難しくなります。これは留学前でも同じで、もし留学に行きたいと考えているなら、そのために何が必要か調べなければなりません。だから、少しでも留学に興味があるなら、国際センターのサイトを見たり、実際に国際センターに行ってみたりすると良いと思います。語学力の基準がどのくらいか、留学に必要な書類の提出日や面接がだいたいいつあるかの確認などを前もってしておく、しっかりそれに向けて取り組むことが出来ると思います。

私の留学生生活も残り4ヶ月になりましたが、まだまだ色々なことに挑戦して、新しいことをたくさん学ぼうと思います。そして、ここでの1年間の経験を日本に帰った後、自分の人生に活かせるようにしたいです。

2. Internship at the International Center



大阪府柏原市にある東大阪大学柏原高等学校2年生の横尾海斗君が、同校の就業体験プログラムで、本学事務局で実際の業務を体験しました。以下は本人の体験手記です。

東 大阪大学柏原高校の横尾海斗です。私は2012年の12月17日から21日にかけての5日間、大阪学院大学の事務局(図書館事務室と国際センター)で就業体験をしました。

これまでにアルバイトなどの就業体験がまったくなかった私は、始まる前はとても緊張していましたが、事務局の方々がとても優しくしてくださったので、充実した日々を過ごすことができました。特に印象に残っているのが、

国際センターで提携大学からの留学生の修了式と修了パーティーの手伝いをしたことです。

まず、国際センターで感じたことは、外国人の留学生や教員の出入りが多いということです。国際センターとは聞いていたのですが、私の予想よりはるかに多くの外国人の方々が来られたので、とても驚きました。そして、国際センターのスタッフがその方々と普通に外国語で話をされているのを見て、とても感



動しました。高校では、英語の勉強が苦手で、遠ざけていたところもあったのですが、日本人スタッフが英語で外国人の方々と話をしているのを見ると、英語も自由に使えるようになりたいという気持ちが強くなりました。また、修了式を手伝った時には、留学生がスピーチで日本に来て本当に良かったと言っているの

を聞いて、とても嬉しくなりました。そして、自分もいつか留学を試してみたいなりました。

大阪学院大学での就業体験では、学校ではできないとても貴重な体験ができたので、これが、将来の計画を立てる上で役に立てば良いなと思いました。



国際センターでの様子

3. 春期海外研修:ヨーロッパ3か国・ビジネス研修

2月23日から3月8日まで実施された初めてのヨーロッパ3か国・ビジネス研修に6名の学生が参加しました。この研修では、3つの国にある提携大学を訪問し、各国のビジネスについて学びました。それぞれの大学での滞在期間は決して長くはありませんでしたが、学生たちにとっては忘れられない貴重な体験となりました。

まず、オーストリアのクーフシュタインからプログラムがスタートしました。この街にあるクーフシュタイン・チロル専門大学で、「ドイツ語圏でのビジネスの仕方」、「オーストリアの文化と歴史」についての講義を受け、オーストリアという小さな国がかつては世界有数の帝国であったことを学びました。さらに、この地域の有名ブランド、世界でも有名なワイングラスを作るRiedel(リーデル)と誰もが知っているクリスタルのメーカーSwarovski(スワロフスキー)を訪問しました。Swarovskiは、1964年と1976年の冬季オリンピックが開催されたインスブルックにあり、企業訪問後は、山間部にあるこの小さな街を散策しました。また、電車で45分のところにあるドイツのミュンヘンにも足を運び、BMWの本社、博物館、ファーマーズマーケット、夜には世界最古のビアホールの一つHofbräuhaus(ホフブローハウス)にも行きました。

次に、ドイツのマインツ専門大学へ移動し、為替レートの変動がドイツと日本の経済にもたらす影響について学びました。非常に内容が難しい授業でしたが、学生たちは自分たちの生活に密着した話題に興味を示していました。さらに、太陽光やバイオエネルギー、風力や水力発電などを含む代替エネルギーをドイツ国内や世界各国に提供しているJUWI Wörrstadtを訪問し、エネルギーを作り出す風車を間近で見ることができました。また、マインツでとても印象に残っているのは、出版業界に革命をもたらした活版印刷技術を考案したヨハネス・グーテンベルクを紹介するグーテンベルク博物館です。なんと、彼はマインツ出身だそうです。

最後の研修先は、フランスのパリにある



(上) スワロフスキー社で
(下) グーテンベルク博物館で説明を受ける学生たち

ESCEでした。大学もホテルもエッフェル塔に近いところだったので、学生たちは毎朝市内の有名な観光スポットまで散歩をしていました。ESCEでは、フランスの政治、経済、文化概論の講義を受け、その後は、パリにある日本文化センターを訪問したり、パリのファッションウィークのために準備されたオートクチュールファッションの展示を見たりしました。もちろん、フランスに来て見逃せないルーブル美術館、レイ14世の住居であったベルサイユ宮殿にも足を運びました。

今回参加した学生たち全員が、本当に真剣に研修に取り組んでいました。提携大学での講義は言うまでもなく、授業以外でも、各国で建築物を見、様々な食べ物に挑戦し、現地の人たちと話をするという、すべてが彼らにとっては忘れられない経験になったことでしょう。第1回目の研修が成功裏に終わったことで、今後もこのような提携大学との取り組みが継続して行われることを期待します。

経営学部講師 G.T. ナカジョウ

東郷 祥大

外国語学部2年次生

私にとってはこれが初の海外研修でした。ビジネス研修と聞いて、経済やビジネスの知識がないと参加できないと思っていましたが、実際に現地で講義を受けてみると、色々な分野の基本知識を得ることができました。一番難しかったのが、ヨーロッパのディスカッション形式の講義です。なぜなら、英語で自分の意見を述べることや、このような形式の講義に慣れていなかったからです。でもこの経験が確実に自分の英語力や知識の向上につながったと思います。さらに、この研修に参加して一番良い経験になったのが企業訪問です。この短い期間で有名な企業を何社も訪れることができたのは、非常に貴重な経験でした。また、3か国に行くことで、各国の環境や文化の違いも感じられ、さらにそれを比較することができるのはこの研修でしか経験できない面白さです。また、ビジネスだけでなく歴史や文化も学べるので、少しでも興味のある人はぜひ参加してみてください！



(上) パリの電車の中で(本人右から2人目)
(下) パリのクレープレストランで(本人左端)



4. I-Chat Lounge

“Drink Bar”

新しい International “Drink Bar”ができました。世界のドリンクを飲みながら、新しい友達を作り、英語力をアップさせましょう。

I-Chatは、様々な国からの先生、学生、訪問者に会える場所であり、異文化を学ぶ場所でもあります。I-Chatにやってくる学生たちは、すでに留学経験者であったり、新しいドリンクや食べ物を試したりしていることも多いです。この新しいDrink Barは、学生たちが実際に海外で試してみてもおいしかったドリンクや自分の母国から持ってきたドリンクを他の学生と共有する場所でもあります。

I-Chatでは、常に新しい出会いの場を提供し、学生にはなじみのない文化も紹介

しています。Drink Barは、自然に会話がスタートする場所であり、世界中の人たちを結びつける場です。

この新しいDrink Barに立ち寄って、英語力をレベルアップさせ、新しい友達

をたくさん作ってください！



“Living English”

Living English”は、学生がより自然な環境の中で、英語のコミュニケーションスキルを向上させることを目的としたI-Chatの新しい試みです。学生たちは、リラックスした雰囲気の中で、このOGUのキャンパスにいながらグローバルな環境に身を置いていることが実感できるでしょう。座り心地の良い椅子、リビングのような雰囲気。まさに、世界のどここの家でも経験できる、アットホームな雰囲気そのものです。

“Living English”の基本的な考え方は、学生たちが緊張しないで英語で話ができる雰囲気を作り出すことです。そうすることで、文法のルールや話し方ではなく、会話パターンを学ぶことができます。学生たちは、I-Chatに一歩足を踏み入れた瞬間に、間違いを恐れることなく話せる「安心できる場所」にいたことが実感でき、英語学習がどんどん楽しくなります！

話されるトピックは様々で、時には学生たちがそれぞれの旅行についての経験を共有し、お互いに質問したりすることで、



文化や世界に対する視野を広めることができます。また、最近の世界事情について話したり、意見を述べたり、他の人の話を聞いたり。これは“Living English”で経験できるほんの一部です。

I-Chatのスタッフは、すべての学生に“Living English”を経験してほしいと思っています。“Living English”では、学生の英語レベルに関係なく、コミュニケーション能力を向上させることができますし、仕事の面接や海外旅行など、これからの新しい挑戦に必要な英語を学ぶことができます。

I-Chatが目標としていることの1つが、学生たちが実生活で英語を使って上手くコミュニケーションが取れるようになるツールを身に付けてもらうことです。この“Living English”がまさにそれを実現する場なのです。思いきって今日から“Living English”を体験しましょう。

5. 新規提携大学: California State University, Monterey Bay



モントレーはあまりなじみのない場所かもしれませんが、サンフランシスコから車で約2時間半のモンレー半島の北側にあるのがモンレー、南側にあるのがカーメルで、どちらも海に面した美しい小さな街です。モンレーは、あの映画「フォレスト・ガンプ」の舞台になった街でもあります。

これまで、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校と長年提携を結んできましたが、新しく同じカリフォルニア州立大学のモンレーベイ校と学術交流協定を締結し、今年の9月から学生交換がスタートします。モンレーベイ校は、1995年に開校され、現在では、23の学部を持ち、約5,500人の学生が学んでいます。州立大学としては、比較的規模が小さく、そのため学生一人一人へのきめ細やかなケアがなされているようです。また、学生の約半分以上がキャンパスの寮で生活しているため、現地の学生、留学生と交流を深める

ことができます。ちなみにスクールマスコットは、ラッコです。さすが西海岸です。

今年は、さっそく1名のOGU学生の派遣が決まっていますが、これからより多くの学生が、モンレーベイ校で交換留学生として学んでほしいものです。



(上) 美しいモンレーベイ
(下) モンレーベイ校のキャンパス



私のおススメ in NZ～Daniel Lilley

ニュージーランドでは近年、おしゃれなコーヒーショップの店舗数が増え、「Café Food」という外食カルチャーがブームになっています。おいしいコーヒーはもちろん、ミートパイ(pies)、スコーン(scones)、ケーキ(cakes)、クッキー(biscuits)、サラダ(salad)、キッシュ(quiche)など、色々揃っています。一番人気はチーズスコーンです。こんがりチーズがのった温かいスコーンにバターを塗って食べたら最高！シンプルだけど、コクのあるニュージーランドの味です。屋外席を設置しているカフェが多いので、デッキチェアでおしゃべりしながら、チーズスコーンを食べて、のんびり... ニュージーランド人のように！ (国際センタースタッフ)



大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号
TEL: 06-6381-8434 (代表)
FAX: 06-6381-8499
Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>